

## 包括連携協定に至る経緯

### ○防府市が目指すもの

#### 【総合計画】

防府市は、「第四次防府市総合計画」において将来都市像「人・まち元気 誇り高き文化産業都市 防府」を掲げ、豊かな自然や歴史と文化を大切にしながら、安全で安心して暮らせる環境の中、人々がいきいきと活動し、さまざまな交流の輪が広がり、人もまちも輝き続けるまちづくりを目指している。

#### 【総合戦略】

総合計画の中に位置づける「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、防府市人口ビジョンによる①若い世代の希望を実現し出生率を向上させる②若者の社会減に歯止めをかける③元気みなぎる地域を創る3つの基本的視点から5つの基本目標を設定し、「産み・育む」「学ぶ」「働く」「住む」「創る」の好循環の形成による人口減少対策と地域創生に取り組んでいる。

### ○山口大学が目指すもの

#### 【明日の山口大学ビジョン 2015】

平成 27 年に創基 200 周年を迎え、将来に向けた取組方針として「明日の山口大学ビジョン 2015」を策定。地域連携を柱の 1 つに掲げ、地域の基幹総合大学として、様々な方面で地域と連携・協力し、地域の『知』の拠点としての役割を果たし、「地方創生」を牽引するとともに、様々な分野で活躍できる人材の養成・育成を地域と進め、産業振興に寄与し、イノベーションの創出を行うことにより、地元への“人財”の定着を図ることを大きく打ち出している。

こうした中、防府市は総合計画・総合戦略を本格展開させるため、山口大学が所在する近隣の地域としてさらに連携を強化したいとの考えから、包括連携協定を打診。これまでの防府市と山口大学との連携実績を踏まえつつ、今後の取組推進のため、責任ある協調関係を組織的に構築するべく協定締結に至った。

## 今後想定される連携内容

### 【地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）】

平成27年度に、若者の地元定着や企業が求める人材育成等を通じ、地方の人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地方創生につなげることを目的とする文部科学省事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に山口大学が代表申請校となり採択を受けた。山口県内の高等教育機関や全自治体、企業等と連携し、地域社会が求め、地域で活躍する人材を育成するための教育プログラムの実施等に取り組んでいる。

地域で活躍できる力を身につけて地域の未来を担う人材を育成し、若者の県内定着を促進する取組であり、防府市における「総合戦略」にも反映されるものである。

### 【明治150年】

平成30年は明治改元から150年を迎える節目の年であり、国において「明治以降の歩みを次世代に遺す」「明治の精神に学び、更に飛躍する国へ」の2つの方針が出され、「明治150年」に向けた関連施策を推進されることとなった。本県においても「明治維新胎動の地」である山口県への県民の誇りと愛着、国内外における山口県の認知度を高め、未来に向けた県づくりが推進されている。

幕末・明治維新の頃の史蹟が多く残る防府市においても、その魅力を広く発信し、歴史や伝統文化を活かした観光・交流の推進を目的として「防府市明治維新150年推進協議会」を設置し、市民総ぐるみによる手づくりの『幸せますのおもてなし』を確立し、「ココロ・ヒト・コト」が一体となった新たな観光推進体制を展開。

### 【国際総合科学部PBL】

こうした中、山口大学の国際総合科学部においては、卒業論文演習の代わりに「プロジェクト型課題解決研究（PBL）」に取り組む。身に着けた能力をより実践的に使うため、企業や自治体と連携して実際の課題に対して取り組む演習である。

このプロジェクト型課題解決研究について、防府市の観光推進をテーマとし、平成30年度に開催される「ほうふ幸せますまち博」にプレイヤーとして参加する。

学生が防府市をフィールドに活動を行う予定。

こうした取組を推進していく上でも、包括連携協定を締結し、山口大学と組織的体制を構築することで、円滑な取組が期待できる。

防府市と山口大学は、これまでも幅広い分野で連携を積み重ねてきているが、改めて協定を締結することにより、人材交流機会の拡大を実現し、互いに実りある連携事業の実施を期待する。

防府市は、この包括連携協定により、「総合計画」「総合戦略」を強力に推進し、防府市における地域創生、教育再生を積極的に進める。